



ミャンマー北部のチン州では、旧日本軍の遺品もいたるところで見ついている

帰国待つ遺骨 69カ所に

【バンコク野中彰久】太平洋戦争の激戦地ミャンマー(旧ビルマ)で旧日本兵の遺骨の所在を調べている民間団体「ミャンマー／ビルマご遺骨帰国運動」は、少なくとも69カ所に推定970人分の遺骨があるとの調査結果を3月31日、タイ・チェンマイ総領事館に提出した。



井本勝幸さん

メンバーの非政府組織(NGO)代表、井本勝幸さん(50)は福岡市出身。「早く日本に持ち帰ってほしい」と話し、日本政府の本格調査と早期収集を求めている。

福岡出身の井本さん ミャンマーで戦没者調査

調査は今年3月まで4地区で実施。厚生労働省の指導で遺骨は掘り起こさず、埋葬地の実地調査や地元民の証言で場所と数を推定した。少なくともチン州(北部)36カ所計579人分▽ザガイン管区(同)2カ所計2人分▽ラカイン州(西部)19カ所計329人分▽カヤ州(東部)12カ所計60人分の遺骨があり、多く見積もれば合計1890人以上とみている。

インパール作戦で旧日本軍が敗走したチン州の通称「白骨街道」沿いでは野戦病院跡に多くの墓が残っており、100〜千人分の遺骨があるとみられる。また、空爆で地下基地がつぶれ多数の日本兵が生き埋めになったとの証言もあった。

ミャンマーでは戦没者約13万7千人のうち約4万6千人分が未収集。政府は調査・収集事業を始める予定だが、時期は未定。井本さんは「政府が動きだすまで民間ベースの活動を続けたい」と話し、調査資金の協力を求めている。問い合わせは横浜市の観音寺1045(431)1434。